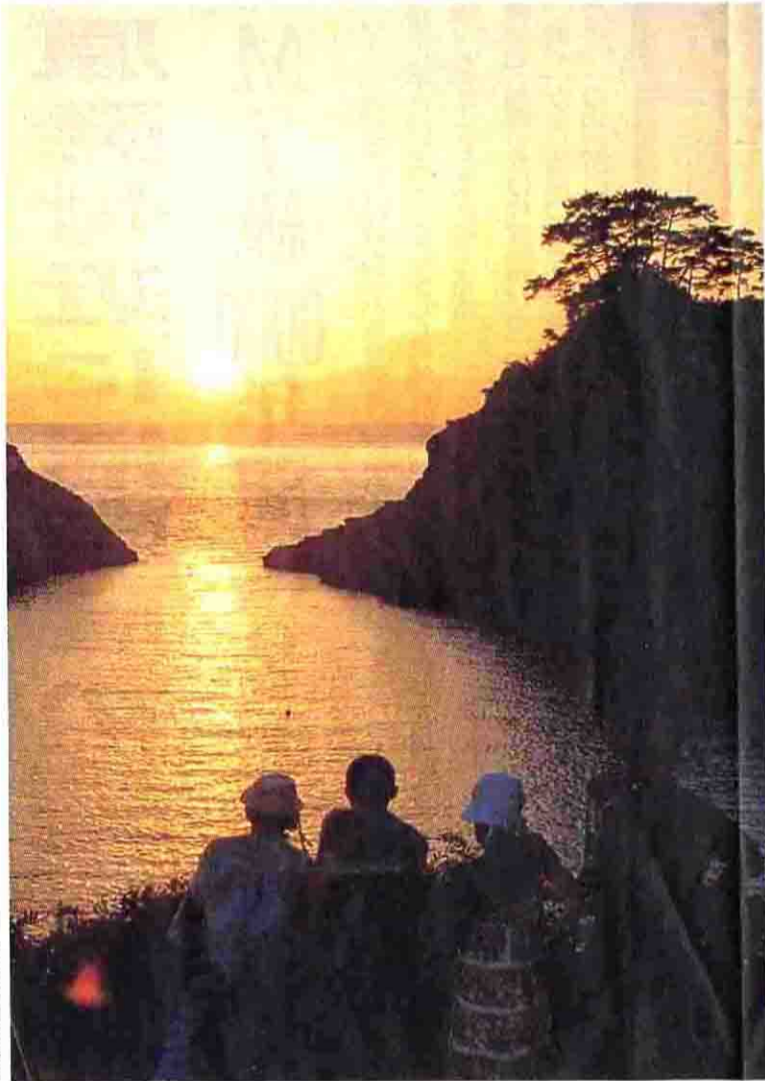


# 西伊豆自慢 住民も太鼓判

## 「夕日33景」選定へ



見ごろを迎えている堂ヶ島の夕日＝西伊豆町

「夕日日本一」を宣言した西伊豆町が地域に詳しい地元住民と協力し、町内の夕日スポットの掘り起こしを進めている。町内五カ所で開いているワークショップで、参加者から寄せられた名所の候補は九十九地点。本年度中に「夕日三十三景」を選定する計画で、町は「町民が案内役となり、町を盛り上げてもらえれば」と期待を込める。

### 候補は 99地点 // 隠れ名所 // 続々

駿河湾に沈む夕日が人気の同町は、平成十七年に「日本一の夕日の町」を宣言。奇岩群の間に沈む夕日が美しい大田子海岸や、西日が岸壁を黄金色に染める黄金崎などの

「定番スポット」には大勢のカメラマンが訪れる。「恋人の聖地」に指定された堂ヶ島の夕日

も、若者やカップルに人気の観光資源として定着しつつある。

そんな夕日を活用した町づくりを目指すワークショップでは、住民と町職員らが航空写真を使って夕日の名所を選んだ。寄せられた意見は定番スポットに加え、昨年春に公園が整備されたばかりの「安城岬」(仁科)直線道路の先に海と夕日を望

む中央農道(宇久須などぎま)ま。鈴木床屋下の棧橋(同)や、夏の限られた間だけ海辺の集落の奥に沈む夕日を望むことができる「大聖寺」(安良里)など、住民のみぞ知る「隠れスポット」も次々と上がった。

同町は寄せられた九十九地点のうち、特に意見や要望が多かった場所については遊歩道やベンチを設けるなど、ハード面の整備に乗り出す考え。住民主体の夕日イベントを開くための調整も進め、官民連携した「夕日の町づくり」を進めている。担当の同町企画調整課は「本当の名所にするには、まず住民に愛着を持ってもらうのが重要。町民がガイドになり、町全体が夕日の美術館のようになれば」と語る。